

保護者のみなさまへ

令和5年11月21日  
南城市立知念中学校  
校長 徳元 清政  
〈公印省略〉

## 修学旅行の教育的意義をあらためて考える (調査 協力依頼)

保護者の皆様におかれましては、本学校教育へのご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、令和5年度の修学旅行を実施するに当たり、様々な課題がみられました。物価高騰や生徒数減による割引率の低さから、修学旅行に係る費用が高額なものになっております。

そもそも、修学旅行の教育的意義とは何でしょうか。

学習指導要領では「旅行・集団宿泊的行事／平素と異なる生活環境にあつて、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、よりよい人間関係を築くなどの集団生活の在り方や公衆道徳などについての体験を積むことができるようにすること」と定めています。平成29・30年度の改訂では、新しい時代を生きる子供たちに必要な「資質・能力の三つの柱」という観点が追加されたものの、修学旅行の根本的な意義は大きく変わってはいません。

### ○“新しい学びの時代”では、修学旅行がますます重要に

現代は、情報化やグローバル化といった社会的変化が想像を超えて進展し得る、まさに“予測困難な時代”です。これからの未来を創る生徒たちは、そうした予測できない変化に対して受け身で対処するのではなく、様々な情報やできごとを受け止めて、主体的に判断しながら解決し、新たな価値(社会)を創造していかねばなりません。

こうした時代の変化を背景に改訂された学習指導要領では、「何を学ぶか」のみならず、「何ができるようになるか」を重視します。そのために「どのように学ぶか(主体的な学び、対話的な学び、深い学び)」の視点として、

一つの物事を多様な視点から捉え、生徒たちが「気付かなかったことに気づく」「考えもしなかったことにまで考えを深める」というアクティブ・ラーニングの視点での授業改善を求めています。

新しい時代に向け、修学旅行も「どこに行くか」ではなく、「何を体験させるか／何を考えさせるか」、そして「どんな資質・能力を身につけさせるか」が一層問われるようになります。修学旅行が、生徒にとって楽しい思い出づくりの場であることは変わらなくとも、これまで以上に教科等との連携を図り、多様なものの見方・考え方を働かせる「学びの場」として、より一層重要な活動になっていくことと思います。

### ○コロナ禍において確認できたこと

新型コロナウイルスの影響で、修学旅行を取り巻く環境にも変化が起きました。必ずしもネガティブなことばかりではなく、別の見方をし、新たな価値の創出につなげることができたと思います。

遠方に旅行することが当たり前であった形態から、県内への旅行に変更になった学校が多かったのですが、生徒たちの感想として多かったのは、行き先がどこであろうと、クラスや班の仲間と共に楽しむ時間が何より楽しかったということです。「一緒に過ごす」という日常が非日常になったコロナ禍で、先生も生徒たちと同じ時間や空間を共有できる修学旅行は、改めてコミュニケーションの場として貴重な機会と認識されたようです。これまでは、歴史や文化、アクティビティというコンテンツの集積している地域を目的地として選定しがちでしたが、指導要領等で本来求められている教育的目的を達しつつ、生徒たちの心理的な欲求に応えようとするときには、その目的地の選択肢は広がります。

新型コロナによって、これまでの修学旅行の形は変わりましたが、「非日常で共に学び・過ごすことの喜び」という、生徒たちにもたらす本質的な価値は変わらなかったのではないかと思います。学校行事の中でも大きな意義を持つ修学旅行を、改めて有益な機会として捉えていくときではないでしょうか。

(校長 徳元)

裏面にアンケートがあります。QRコードを読み取って答えてください